

10代・20代女性にリサーチ! あなたの困りごと、悩みごとをおしえてください

さびしい、つらい、ほっとできる場所がない、など、どうしてなのかよくわからないまま、心の中でSOSを出している若い女性があります。

With You さいたまでは、昨年7月に「若年女性支援の『これから』を考える」と題した講演会を開催しました。

『これから』を検討するためには実態を知ることが必要と考え、10代後半から20代前半の女性がどのような困りごとや悩みごとを抱えているか、アンケート調査を行いました。

この調査は、これまでWith You さいたまと関連のあった県内の大学及び県立高校等に御協力いただき、在学している学生に回答をいただきました。また、With You さいたまのフリースペースの利用者にも回答を呼びかけました。

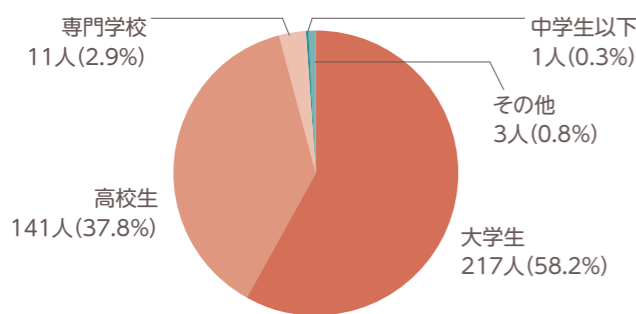


約半数が誰にも相談しない

アンケートにご回答いただいた女性373人(図1)のうち、93人が困りごとや悩みごとがあると回答しました。

内容をみると、「ひとりぼっちだと感じる」が36人と最多でした。コロナ禍での分散登校やオンライン授業などにより、対面による人間関係が希薄になり、孤独感や孤立感が増しているのかもしれませんが。他にも、生活費の不足、精神的な暴力、性に関する嫌な思い出など、かなり深刻な内容のものもありました(図2)。また、93人のうち45人が誰にも相談をしていませんでした。相談したのは46人、回答なしが2人でした。46人の主な相談相手は「学校の友人・先輩・後輩」、「母」が、ともに半数を超え、それに「学校の先生」、「交際相手」が続きます。「父」へ相談する人は母の半分にも満たない数でした。また、市役所や民間団体などの電話相談やSNS相談を利用した回答者はいませんでした(図3)。

(図1) 回答者・女性(373人)の概要



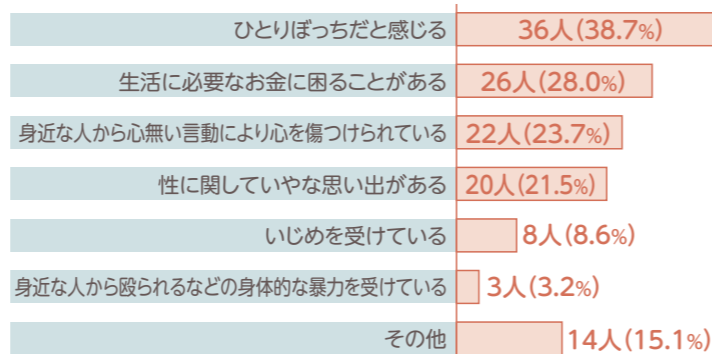
自分の家でほっとできない!?

自身のほっとできる(安心できる)場所については、回答者の多くが「自分の家」、「自分の部屋」を選んでいました。「自分の部屋」を選んでいるのに「自分の家」を選んでいない回答者が71人おり、なぜ「自分の家」でほっとできないのか気がかりです。

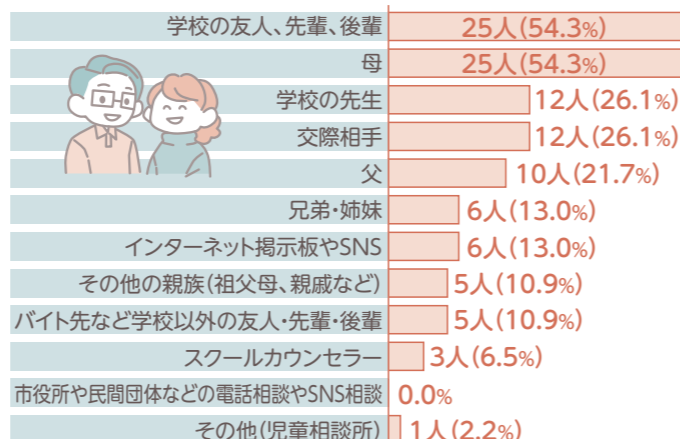
回答者373人のうち22人(約6%)が「自分の家」「自分の部屋」共にほっとできる場所として選んでおらず、そのうち7人が「安心できる場所がない」と回答していました。



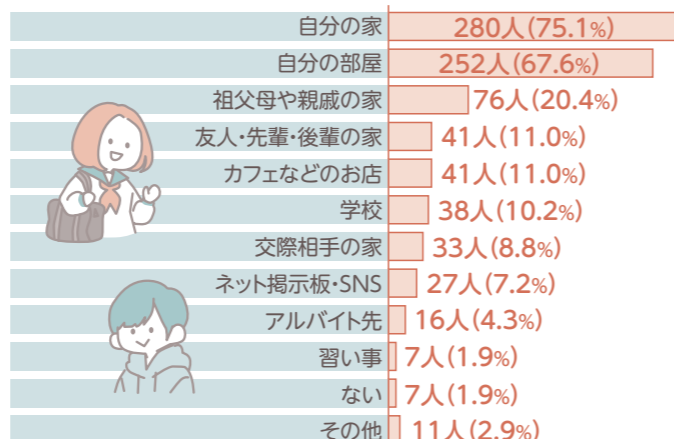
(図2) 困りごとや悩みごとの内容(複数回答可) n=93人



(図3) 相談相手(複数回答可) n=46人



(図4) ほっとできる(安心できる)場所(複数回答あり) n=373人



つらいときやさびしいときは我慢しないで、「助けて」って言っていいんだよ

生きづらさを抱える女性たちのために様々な支援活動を行っている、認定特定非営利活動法人 女性のスペース「結」さんにお話を伺いました。

女性のスペース「結」では、DV相談や生きづらさを抱える女性たちの相談を受け、必要に応じてカウンセリング、アウトリーチ、自立のための各種手続きへのアドボケート(同行支援)を行っています。また相談の中から見えてくる課題に基づき、毎年テーマを決めて研修や講座を開催します。

私たちが受けている相談の内容を年代別にみると、10代、20代の方からの相談は家庭のこと(ネグレクト、居づらさ、ヤングケア)と人間関係(家族、友人、交際相手のこと)が多いように思えます。様々な要因により子どもらしく過ごせなかったこともあり、その代償を求め一方で、「リスカしようかな」などと本音を語ってくれることもあります。

その背景にはやはり、生まれ育った環境、学校でのいじめ、不登校の経験、途切れてしまう教育、就労経験の不足等があるようです。生きづらさやさびしさゆえ、SNSの出会い系サイト等で簡単に異性につながり、性行為に及ぶこともあります。妊娠に気づいた時にはパートナーと連絡が取れなくなり、出産はしたもののDVや生活困窮から生活が破綻し、頼れる人もいなくて孤立してしまうというケースもあります。

彼女たちには安らげる居場所がありません。当団体では居場所の提供をしていますが、彼女たちを誘ってもなかなか来てくれません。「コロナだから……」と言いますが、それ以上に対面で会うこと、ましてやグループで話すなんて面倒、もっと簡単にLINEやメール、電話で

認定NPO法人 女性のスペース「結」 <https://watashihiro.com/>

つながってみたいようです。問題解決のためには面談が不可欠ですが、お会いできないことも多く、その対応や支援に難しさを感じます。

家を出たい、自立したい、生活保護を受けたい、またDVや性暴力、セクハラやストーカー被害にあった場合は、公的機関につなぎます。これについても簡単に他機関を紹介すると、「話を聞いてくれなかった」と思われる方もおり、緊急性があっても、まず本人がどうしたいか、何を求めているのかを丁寧に伺うことを心掛けています。

今回のWith Youさいたまの「困りごと・悩みごとアンケート結果」では、「ひとりぼっちだと感じる」と答えた方が36人でしたが、私たちは「ひとりであることは悪くない」とお伝えしたいです。自分で自分のことを好きになれば、ひとりであることの自由さ、楽しさをさらに満喫できるようになるのではないのでしょうか。そして、「さびしい」や「助けて」を、もっと言っていいし、言ってほしいと思います。あきらめないで、勇気を出して誰かに相談してくれれば、それを聴いてくれる人は必ずいます。

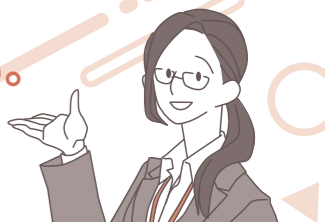
コロナ禍以降、小学生にまでも生きづらさが波及してきており、自殺率の増加は深刻です。このような社会にしてしまった大人の責任は大きいですね。日本では長い間、我慢が美徳のように言われてきましたが、私たちは「そんなに我慢しなくてもいいよ、辛い、苦しい、困った、助けて、痛い、お腹すいた、もっと言っていいよ」とメッセージを送りたいです。そういうことが言える社会、それらを受け止められる社会を作っていかなければならないと思っています。

【さいたまりぷろの家】 TEL:0120-15-8633 MAIL:ripuronoie@gmail.com



若い女性は相談せずに抱え込む傾向。公的機関など正しい情報を得られるところに相談してほしい。

「あなた」の力になってくれる団体、公益社団法人 埼玉県社会福祉士会さんにお話を伺いました。



公益社団法人 埼玉県社会福祉士会は、国家資格である「社会福祉士」資格を有する者で組織しています。心身の問題や生活困窮などにより、日常生活の営みに困難がある方の相談に応じ、助言や支援を行っています。主な支援は公的機関を通じて行っており、そのいくつかをご紹介します。

①住宅ソーシャルワーカー事業

生活に困窮していて安定した居宅のない方を対象とした事業です。民間アパート入居のための不動産会社同行など居宅を移る際の支援を行います。また、新しい生活環境への不安を解消できるまで、入居した後も担当者がひとりずつ付き、定期的に家庭訪問や面接を行います。

②家計改善支援事業

家計に課題を抱える方が自身の家計をきちんと管理し、早急に生活を再建するように支援します。「節約しなさい」「収入を増やしなさい」などということではなく、家計の見直しを通して家族が抱えている課題を明確にします。半年以上にわたって面談を行うこともあり、その中で様々な悩みを打ち明けてもらうことがあるので、傾聴し、適

切な支援につなげています。

③進学支援

生活困窮世帯の児童・生徒や、児童養護施設等を退所した方が家庭環境等を理由に進学をあきらめないよう、支援します。

生活困窮世帯の児童・生徒とは、本人だけでなくケースワーカーや家族と一緒に、進学先や奨学金の活用などを考えます。進学すると生活保護が切れてしまうので、その後の確定申告の手続や金銭管理も支援します。

また、児童養護施設等を退所し大学等に進学した方には、住居を低額で提供するとともに相談支援を行う事業も実施しています。

若い女性は相談せずに抱え込む傾向があるように感じます。ネット上で相談する方も多いと思いますが、正しい情報を得られず、更に困窮してしまうこともあります。若い方の困難は、必ずしも自分自身が招いたものではありません。自己責任ではないことに気づいていただき、決して我慢せず、学校や公的機関など信頼できるところに相談してほしいと願っています。

公益社団法人 埼玉県社会福祉士会 <https://saitama1717csw.jp/>

With You さいたまでは、電話やインターネットで相談を受け付けています。また、講座等を通じて、少女や若い女性たちが困難を抱えている実情に目を向け、その背景にある性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について深く理解する機会も設けていきます。